

本号のフィールドレポートで日本貨物鉄道株式会社殿にご紹介頂いたハイブリッド入換機関車に、先日試乗する機会がありました。午後の1時間余り、広大な東京貨物ターミナル駅構内を忙しく往復して、到着列車をコンテナホームに押し込み、積み付けが終わった編成を着発線に引き出し、次の運用に向けて空の貨車を組成し、定期検査を受ける車両を検修基地に運び…と大活躍でした。コンテナを積載した20両余りの編成を引き出す際の加速は大型電気機関車に及びませんでした、エンジ

ンを唸らせ紫煙を噴き上げながら起動するこれまでのディーゼル機関車と比べれば動力性能に遜色はなく、静粛性は比較になりません。

用途を構内入換に限定することで駆動システムのバッテリーハイブリッド化を可能とし、地球環境にも作業環境にも優しい機関車を実現したこの例は、同種の技術開発に対する今後の指針になると考えられます。試作機開発時に性能確認試験をお手伝いさせて頂いた一人として、とても嬉しくなりました。(T.H.)